マルチナショナル・ミュージック

MultiNATIONAL MUSIC

トルコ・イスラエル・フランス
境界線を越える音楽の強さ。

https://www.harmony-fields.com/

LIGHT in BABYLON

ライト・イン・バビロン

乱反射が生み出す
オリエンタル・ソウル・ミュージック

2023. 7/

14TH FRI.	15TH SAT.	16TH SUN.	17TH MON.	19TH WED.	20TH THU.	22ND SAT.	23RD SUN.
東京	東京	神奈川	埼玉	静岡	広島	島根	兵庫
南青山	国分寺						

LIGHT IN BABYLON TOUR IN JAPAN

多様な民族と文化の融合プロジェクト

ライト・イン・バビロン LIGHT IN BABYLON

ライト・イン・バビロンはイラン系イスラエル人の女性歌手ミハルが、フランス人ギタリストのジュリアン、トルコ人のサントゥール（バチで叩く琴状の楽器）奏者のメテハンとともに、国際都市イスタンブールの路上で活動を開始した多国籍トリオ。バンド名は、今なお民族間や宗教間の紛争が続く中東地域を古代の大都市バビロンに例え、混沌としたバビロンに音楽を通じて小さな明かりを灯すという意味であろう。

ユダヤ教徒のイラン人だったミハルの両親は、1979年にイランで起きたイスラム革命によって祖国を追われ、イスラエルに亡命した。現在でもイランでは女性が人前で自由に歌うことは禁止されているが、彼女はイスラエル人のため、自由に音楽を奏で、（イスラエルのヘブライ語でもイランのペルシャ語でも）歌を歌うことができる。また現在も両国は敵対しあい、国交が断絶しているため、彼女は両親の祖国イランを訪れることはできない。

日本でも大きく報道されたが、イランでは昨年9月、若い女性がヘジャブ（スカーフ）の着け方を理由に風紀警察に拘束され、その後死亡した事件が起きた。それをきっかけに「女性、命、自由」をスローガンにした反政府デモがイラン全土、更に世界中のイラン人コミュニティーで起こり、現在まで広がり続けている。もちろんミハルたちはこの動きに賛同している。

ミハルの夢は女性が自由に歌を歌えるようになったイランに行き、歌を歌うこととのこと。今は叶わぬ夢だが、音楽を通じてバビロンに明かりを灯し続ければ、いつか彼女の夢が叶う日が来る……そう信じたくなる。

サラーム海上
音楽評論家
DJ
中東料理研究家

イスタンブールの路上で活動を開始した多国籍トリオ。
古代の大都市バビロンに音楽を通じて明かりを灯す。

ライト・イン・バビロン ツアー2023 LIGHT IN BABYLON TOUR IN JAPAN 2023

［ツアー詳細情報］

7/14 金	東　京	南青山 BAROOM	Open 19:30 / Start 20:00	一般 5,000円	info@baroom.tokyo
15 土	東　京	国分寺市立いずみホール	Open 14:00 / Start 14:30	一般 3,500円	Tel. 042-323-1491
16 日	神奈川	海老名市文化会館	Open 14:30 / Start 15:00	一般 2,500円	Tel. 046-232-3231
17 月・祝	埼　玉	所沢市民文化センター	Open 13:15 / Start 14:00	一般 3,800円	Tel. 04-2998-7777
19 水	静　岡	浜松市楽器博物館	Open 18:30 / Start 19:00	一般 3,000円	Tel. 053-451-1128
20 木	広　島	広島市 西区民文化センター	Open 18:00 / Start 18:30	Tel. 082-234-6262［広島音楽鑑賞協会］	
22 土	島　根	安来市総合文化ホール	Open 13:30 / Start 14:00	前売一般 3,000円	Tel. 0854-21-0101
23 日	兵　庫	伊丹アイフォニックホール	Open 14:30 / Start 15:00	前売一般 4,000円	Tel. 072-780-2110

後援：イスラエル大使館、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ

日本に灯ったライト・イン・バビロンの明かり

雲を突き抜けるような力強い歌声が、新しい世界の風景を描く。色を加えるように、楽器の音が重なっていく。彼らの音楽は、あらゆる境界を横断し、分断された社会の狭間に誰もが居られる場所を生み出している。

——— **石井 紗和子**（浜松市楽器博物館学芸員／キュレーター）

ヨーロッパとオリエント世界の交差点であるトルコのストリート発。ペルシャ、バルカン、セファルディ（スペイン系ユダヤ人）の音楽を自在にミックスし、力強く解き放つ彼らの歌とサウンドは、国境で隔てることのできない様々な〝繋がり〟を聴く者に再認識させる。

——— **吉本 秀純**（音楽ライター）

幼少期からクラシック音楽の世界に育った私ですが、ここ10年の時の流れの中でクレズマー音楽に魅せられたことがきっかけとなり、北欧音楽、アラブ音楽など、様々なジャンルの音楽家の皆さまと演奏するようになりました。そんな中、YouTubeで最近たまたま聴いていたLightinBabylonさんの多様で新しい音楽にも刺激を受けておりましたので、まさかの来日に興奮！この機会を逃さず皆さんも是非enjoyしてくださいね。

——— **新倉 瞳**（チェロ奏者）

ライト・イン・バビロンの音楽は知りませんでした。初めて聴いてその迫力に圧倒されました。違うタイプの音楽ですが、十代のころに初めてマヘリア・ジャクソンを聴いたときの驚きに近いものがありました。YouTubeで10曲くらい聴きましたが、とても好きになりました。当初は宗教的な音楽かと感じましたが、耳が慣れてくると物語性のある表情豊かな歌と演奏に魅了されました。

——— **きたむら さとし**（絵本作家）

乾いた砂漠にかれることのない泉。とうとうと湧き出る水。サントゥールの爽快な調べと、それにのって舞いあがるミハルの力強い歌声は、私の脳裡にそんな情景を映した。その湧き水には時間、空間、人びとの間にできてしまった隔たりを溶かしてくれる勢いがある。

——— **岩崎 和音**（サントゥール奏者）

これだけ簡単に様々な音楽が手に入る時代になったにも関わらず、未だ知らない音楽は山ほど存在している。音楽を生業としている身としては常にアンテナを張ってはいるが、自分の想定外のものには中々出会う事が難しい。
そんな時に出会ったのがこのLIGHT IN BABYLONだった。
多国籍のミュージシャンから作り出されるパワーに溢れるこの音楽こそが、僕の中には存在せず僕が探していた音楽だ。

——— **野崎 良太**（Jazztronik）

魂から叫びたくなるアイデンティー。どこまでもつきぬけるような歌声と力強さ、なんだろう？私が愛して止まない伝統野菜、在来種野菜と同じ生命力！まさに細胞がうずめく感じ。イスラエル・トルコ・フランス。国は違えど、音楽で共鳴することで新たな息吹が吹き込まれ、さぁ、今こそ覚醒せよ！と促されている。ジャンルを越えてたくさんの人に聴いてほしいです。

——— **小堀 夏佳**（一般社団法人日本野菜テロワール協会代表理事）

サントゥール Santoor (Santur/Santour)

古くからあるイランの打弦楽器。台形をした共鳴胴の上に、4本がひとまとまりになった弦が20組前後、琴のように張られている。胴体はクルミで、弦は高・中音域がスチール、低音は真鍮・銅の合金の金属弦だ。それぞれの駒の上にまとめられた4本の複数弦が同じピッチに調律されることにより、音に奥行きやボリュームを持たせている。一度バチで打つと、触れるなどして音を止めない限り、胴で共鳴した余韻が響き続ける。そのため、メロディーを奏でると多くの音が重なり合い、倍音を含んだ神秘的な音響が辺りを満たすのだ。もとは紀元前のメソポタミア文明で、まずハープ（竪琴）状のはじく楽器が生まれ、その別奏法として弦を打っていたのではないかという推測が近年聞かれるようになった。また、チェンバロやピアノの起源だという説も根強い。サントゥールの美しい音色は聴く者を「そこではないどこか」へと誘う。かつてペルシア人は、草木が生い茂り流水を湛えた「楽園（パラダイス）」をイメージ上で希求していたように、令和の日本人もサントゥールの音色によって、見たことのない楽園への旅の切符を手にすることができよう。

——— **文｜岩崎 和音**（サントゥール奏者）

New Album
5/1 リリース

オン・アワ・ウェイ

1 Sea of Salt / 塩の海
2 Sheipatach (Let it open) / 開けてみよう
3 Si veriash a la rana / カエルに会えるなら
4 Abdu loves Randora / アブドゥはランドーラを愛している
5 Kol Ele (All of these) / 生きることの全て
6 Train to Isfahan / イスファハンへの列車
7 Sal Sal / サルサル
8 Ein Li (I don' t have) / 私は自由
9 For our kids / 子どもたちのために
10 Khi (Take) / テイク
11 Morenica / モレニカ

TAKI-9001 TAKI' S FACTORY 3,000円（税込）
日本語解説（歌詞対訳はありません）

トルコ発のグループといえば、最近は70〜80年代のターキッシュ・サイケに影響を受けた音を展開するバンドなどが多いが、このライト・イン・バビロンはメンバー各々のバックボーンからして明らかに異なる。オリエンタルな打楽器を叩きながら歌うミハルはイランにルーツを持つイスラエル人女性であり、中東のカーヌーンや東欧のツインバロムにも連なるペルシア起源の撥弦楽器＝サントゥールを奏でるメテハンはトルコ人だが、ギターのジュリアンはフランス人。それゆえに、シンプルなトリオ編成で奏でられる彼らの音楽には、イランの音楽から、中東〜トルコ、セファルディと呼ばれるスペイン系ユダヤ人の音楽に、東欧〜バルカン半島のロマ（ジプシー）の音楽やフラメンコに通じる側面まで…。あらゆる要素が血肉化されて溶け込み、ストリート（路上）から活動をスタートさせた人達ならではの力強さを伴って、聴く者にダイレクトに突き刺さる独自のスタイルを確立している。

15世紀末にスペインからユダヤ人が追放される前に書かれたとされるセファルディの結婚式の歌や、1979年のイラン革命を歌った曲、バルカンらしい8分の9拍子のリズムや旋律を効かせた楽曲なども取り上げながら、ソウルフルかつグルーヴィーに奏でられる鮮烈なライト・イン・バビロンの音世界は、地図上に引かれた国境線とは違った音楽のルート、記憶、繋がりを体現しているかのようだ。

―――― 吉本 秀純（音楽ライター）

YouTube

YouTube動画再生総数 3000万回超え

エスニック最前線、多様な民族と文化の融合プロジェクト。
ワールドミュージックでは桁違いの動画再生数で、動画から伝わる熱量が世界中に拡散され続けている。

イスタンブールのストリートからのドキュメンタリー

Ya Sahra（520万回再生）

森と湖の北欧からの贈り物

10月
フリスペル
〈スウェーデン〉

12月
マイア・カウハネン
〈フィンランド〉

2024年1月
スヴェング
〈フィンランド〉

制作／招聘

Music Brings Us Together
Harmony Fields
www.harmony-fields.com
株式会社ハーモニーフィールズ

兵庫県西宮市北口町17-11
TEL. 0798-55-9833
info@harmony-fields.com